

科目名 (英)	東洋医学臨床論Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	
	Clinical Oriental MedicineⅡ	授業形態	講義	総時間 (単位)	60 3	開講区分	前期
学科・コース	鍼灸科			曜日・時限			
【授業の学習内容】							
・東洋医学臨床論では臨床上で扱う一般の疾患・症候に対して幅広い対応が行えるよう現代医学的な考え方に基づく診察と施術について学習するとともに東洋医学的な観点からの診察と施術法についても学習する。 ・特に東洋医学臨床論Ⅱでは呼吸器疾患、消化器系疾患、循環器系疾患、泌尿器生殖器疾患に加え耳鼻科、眼科、膠原病等について学習する。 笹尾 実務実績 鍼灸院での勤務、診察から治療までの業務に従事 医療系専門学校にて教鞭をとる。 資 格 はり師、きゅう師							
【到達目標】							
①現代医学的また東洋医学的考え方に基づく診察を行うことができる。 ②両医学に基づき適・不適の判断理由を説明することができる。 ③両医学の観点より適切な施術方法について説明できる。							
授業計画・内容							
1回目	鼻淵(鼻閉・鼻汁)の病証と治則・治法について理解し、説明することができる。						
2回目	現代医学的な観点から、咳と痰、呼吸困難、鼻閉・鼻漏について鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。						
3回目	眩暈の病証と治則・治法について理解し、説明することができる。						
4回目	現代医学的な観点から、アレルギー性鼻炎、気管支喘息、肺気腫について鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。						
5回目	耳鳴・耳聾(難聴)の病証と治則・治法について理解し、説明することができる。						
6回目	現代医学的な観点から、食欲不振、腹痛、悪心・嘔吐、胃炎、胃・十二指腸潰瘍について鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。						
7回目	咳嗽の病証と治則・治法について理解し、説明することができる。						
8回目	現代医学的な観点から、下痢、便秘、過敏性腸症候群について鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。						
9回目	喘息の病証と治則・治法について理解し、説明することができる。						
10回目	現代医学的な観点から、動悸、胸痛、带状疱疹、肋間神経痛について鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。						
11回目	胸痺(胸痛)の病証と治則・治法について理解し、説明することができる。						
12回目	現代医学的な観点から、狭心症、高血圧について鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。						
13回目	嘔吐・胃痛の病証と治則・治法について理解し、説明することができる。						
14回目	現代医学的な観点から、冷え症、閉塞性動脈硬化症、レイノー症候群について鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。						
15回目	腹痛の病証と治則・治法について理解し、説明することができる。						
準備学習 時間外学習	(目標①)前提:この授業を受けるには、解剖学、経穴学、臨床医学総論、臨床医学各論の知識が必要。 (目標②)授業後は分らなかった箇所をチェックし、自分で調べたり教員に確認するなどの対処をすること。 (目標③)前回までの内容をチェックして授業を受けること。						
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。						
受講生への メッセージ							
【使用教科書・教材・参考書】							
教科書:新版 東洋医学概論 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社、新版 経絡経穴概論第2版 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社 鍼灸療法技術ガイドⅡ 文光堂、臨床医学総論 東洋療法学校協会編 医歯薬出版社株式会社、臨床医学各論 東洋療法学校協会編 医歯薬出版社株式会社 参考書:鍼灸療法技術ガイドⅠ 文光堂、ずっと使える!鍼灸臨床BOOK 株式会社滋慶出版/つちや書店							

科目名 (英)	東洋医学臨床論Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	
	Clinical Oriental MedicineⅡ	授業形態	講義	総時間 (単位)	60 3	開講区分	前期
学科・コース	鍼灸科			曜日・時限			
【授業の学習内容】							
・東洋医学臨床論では臨床上で扱う一般的疾患・症候に対して幅広い対応が行えるよう現代医学的な考え方に基づく診察と施術について学習するとともに東洋医学的な観点からの診察と施術法についても学習する。 ・特に東洋医学臨床論Ⅱでは呼吸器疾患、消化器系疾患、循環器系疾患、泌尿器生殖器疾患に加え耳鼻科、眼科、膠原病等について学習する。 笹尾 実務実績 鍼灸院での勤務、診察から治療までの業務に従事 医療系専門学校にて教鞭をとる。 資 格 はり師、きゅう師							
【到達目標】							
①現代医学的また東洋医学的考え方に基づく診察を行うことができる。 ②両医学に基づき適・不適の判断理由を説明することができる。 ③両医学の観点より適切な施術方法について説明できる。							
授業計画・内容							
16回目	現代医学的な観点から、めまい、耳鳴、難聴について鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。						
17回目	泄瀉の病証と治則・治法について理解し、説明することができる。						
18回目	現代医学的な観点から、メニエール病、眼精疲労、排尿障害について鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。						
19回目	便秘の病証と治則・治法について理解し、説明することができる。						
20回目	現代医学的な観点から、ED、前立腺炎、前立腺肥大症、夜尿症について鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。						
21回目	癰閉(排尿困難)の病証と治則・治法について理解し、説明することができる。						
22回目	現代医学的な観点から、月経痛、つわり、骨盤位、早産、微弱陣痛、分娩時和痛について鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。						
23回目	陽萎(ED)の病証と治則・治法について理解し、説明することができる。						
24回目	現代医学的な観点から、乳汁分泌不全、更年期障害、関節リウマチ、線維筋痛症について鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。						
25回目	発熱の病証と治則・治法について理解し、説明することができる。						
26回目	現代医学的な観点から、全身性強皮症、シェーグレン症候群、混合性結合組織病、不眠症、不定愁訴について鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。						
27回目	月経不調の病証と治則・治法について理解し、説明することができる。						
28回目	現代医学的な観点から、うつ病(うつ状態)、かゆみ、糖尿病、骨粗鬆症について鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。						
29回目	不眠の病証と治則・治法について理解し、説明することができる。						
30回目	現代医学的な観点から、認知症、外科(顎関節症)、緩和医療、小児鍼灸について鑑別の要点と適・不適の判断、適切な治療方法について説明ができる。						
準備学習 時間外学習	(目標①)前提:この授業を受けるには、解剖学、経穴学、臨床医学総論、臨床医学各論の知識が必要。 (目標②)授業後は分らなかった箇所をチェックし、自分で調べたり教員に確認するなどの対処をすること。 (目標③)前回までの内容をチェックして授業を受けること。						
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。						
受講生への メッセージ							
【使用教科書・教材・参考書】							
教科書:新版 東洋医学概論 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社、新版 経絡経穴概論第2版 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社 鍼灸療法技術ガイドⅡ 文光堂、臨床医学総論 東洋療法学校協会編 医歯薬出版社株式会社、臨床医学各論 東洋療法学校協会編 医歯薬出版社株式会社 参考書:鍼灸療法技術ガイドⅠ 文光堂、ずっと使える!鍼灸臨床BOOK 株式会社滋慶出版/つちや書店							